

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		発達支援ゆず本山ルーム				公表日		2025年 3月 30日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		適切である。	必要が生じた場合は適宜対応します。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		基準を満たしている。	必要が生じた場合は適宜対応します。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		適切である。	必要が生じた場合は適宜対応します。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		事業所内空間の心地よさは、常に意識している。	必要が生じた場合は適宜対応します。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○	・部屋としての個室は準備できないが、室内環境を工夫してこどもが落ち着いて過ごせるように対応している。	必要に応じて、パーティションなどを活用し、個別空間を得られるような工夫を行っていく。			
営	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		職員全員が目標をたてて定期的に振り返るとともに、今後の業務に反映する努力をしています。				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者同室の療育が主体のため。適宜保護者からいただいたご意見はスタッフ間でディスカッションしている。	常に情報共有できるよう、記録の充実と共有時間を適宜持ちながら業務改善につなげています。			

業務改善	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的な面談を実施している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		第三者による外部評価については、今後の検討課題とする。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		定期的な研修やスーパーバイザー制度を活用して学びにつなげている。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		作成し、公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		常に保護者と連携し、課題の抽出や目標設定を行っている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		常にスタッフ間でのディスカッションを実施する中で情報共有を図っている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		担当者と児発管間で適切な情報共有が行えている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		保護者同室のため、常にアセスメントを行い、評価プログラムの運用による療育内容の充実に努めている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		必要な項目がすべてふくまれた形で記載しており、目標に向けた療育が行えるような内容を設定している。	

× 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		ケースによりチームで課題を共有している。	チームでの課題共有をさらに図っていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		常にアセスメントと観察を常に行い、お子様の状況に合わせてプログラムの構築と実施を行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別主体ではあるが、他のお子さんと一緒に活動する機会がある。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			個別の場合、担当者が決定することが多いが、できるだけ事前共有を図る機会を持てるように工夫していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		お子様やご家族の状況について、常に共有を行い支援につなげている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		ケース記録を詳細に取っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		適切な時期に適切に行なっている。	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		関係機関との会議の機会は少ないが、必要時には児発管や担当者が出席するようにしている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		連携の依頼があれば、すみやかに対応している。	連携について主体的に動くことも検討している。

関係機関や保護者との連携

26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		見学、契約の時点から、保護者支援を含めての相談や関係園との情報共有を必要に応じて行っている。	
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		必要時に対応している。	
28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		○	・事業所内のセラピストとの共有、事業所内研修、事例検討会などの情報共有により、相談やフィードバックを受ける機会を持っている。 ・神戸市の研修会などに自発的に参加している。	
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		個別療育が主体のため、園との交流の機会は少ないが、今後連携についても検討していく。
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		原則保護者同室のため、個別療育の中で都度保護者と情報共有を行っている。	

	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		療育の中でフィードバックを行うことで、必要な情報の共有を進めている。	必要に応じてプログラムとして研修等を実施することも検討していく。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に児発管より説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		子どもの権利条約を支援の基本にしている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		児発管が適宜行っている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		療育時間中に都度相談や助言を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		・保護者の方の交流の場を設ける希望があれば、事業所内での開催を検討していきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		保護者からの発信に限らず、職員からの声掛けやアセスメントによる情報共有、相談の対応を常に行っている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		療育の中でフィードバックを行うことで、必要な情報の共有を進めている。	ニーズがあれば発信を行うことも検討していきたい。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報保護マニュアルを制定している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		子どもの権利条約に基づき適切な配慮を行っている。	

	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		・保育所等訪問支援事業に携わり、保護者からの要望がある場合など、必要に応じて情報の共有を行っている。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		常に室内の安全対策について職員で共有しつつ対策を講じている。必要に応じて	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを策定し、定期的に避難訓練を実施している。	災害を想定した避難訓練も検討していく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。		○	・保護者から申し出られるときは対応している。 ・アルコールや小麦粉など、アレルギーについては事前に確認している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。			・食事の提供はない	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		・療育の環境としてスタッフ同士で確認、点検をする機会はある。 ・定期的に室内の安全を確認できるように、事業所ルールに沿って行うようにする。	安全には十分な配慮を行っているが、それだけでなく今後は安全計画の作成も検討していく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○	療育中の安全確保は全スタッフで行っている。	・ご利用者の方との安全確認などを行うように、実施時期を決めて一緒に確認する機会を定期的に設ける。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットが発生した場合は、報告書をすみやかに作成し、全スタッフで回覧している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		定期的な研修を実施している。	

	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		研修を実施している。	
--	----	--	---	--	------------	--